

令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

令和4年3月31日
足立区教育委員会
学力定着推進課

文部科学省が令和3年5月27日（木）に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について下記のとおりお知らせします。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童・生徒
足立区実施校数 小学校69校 中学校35校 全校実施

足立区調査人数 (単位：人)

科目 対象学年	足立区調査人数 (単位：人)		
	国語	算数・数学	児童生徒 質問紙調査
小学6年生	5,046	5,052	5,053
中学3年生	4,148	4,146	4,144

3 調査内容

(1) 児童・生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 調査問題では、上記（ア）と（イ）を一体的に出題。

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。

(2) 学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施。

4 「教科に関する調査」の概要

①小学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	算数
足立区 ※	69.2	72.8
東京都（公立）※	68	74
全国（公立）	64.7	70.2

②中学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	数学
足立区 ※	64.2	55.2
東京都（公立）※	67	60
全国（公立）	64.6	57.2

※ 平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数で公表されることとなりました。

足立区においては、より緻密に全国平均値と比較するため、上記表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

なお、東京都（公立）の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていないため、整数のまま参考として掲載しています。

<用語の解説>

平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○ 国語、算数・数学ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数） ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率
全国回答割合	全国（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合
東京都回答割合	東京都（公立）の児童生徒の児童生徒質問紙調査における回答割合

5 教科ごとの調査結果及び正答状況から見た現状と課題

小学校6年生【国語】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)			
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		14	69.2	68	64.7	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	74.3	69.9	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	80.2	81.8	77.8
		B 書くこと	2	62.8	62.7	60.7
		C 読むこと	3	52.5	53.5	47.2
評価の観点	知識・技能	6	74.3	69.9	68.3	
	思考・判断・表現	8	65.5	66.4	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

■ 正答状況

- ・ 全体では、区の平均正答率が全国値を4.5ポイント上回った。
- ・ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を6.0ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を3.4ポイントそれぞれ上回った。
- ・ 「知識・技能」より「思考・判断・表現」の方が上回ったポイントが低い。

■ 「読むこと」について

- ・ 「思考・判断・表現」では、「読むこと」の領域が、他の領域と比較して、平均正答率が52.5%と低い。
- ・ 『文章と図表から、中心となる語や文を見つけて、条件に合わせて要約する』問題の平均正答率が34.5%と最も低く、無回答率も7.5%と全国値を2ポイント上回るほど高い。

■ 見えてきた課題

中心となる語や文に注意して読み、条件に合わせて考え、それを要約して書くことに課題がある。

授業改善のポイント

- ・ 内容の中心となる語や文を選び、条件に合わせて要約できるようにすることが大切である。
- ・ 要約する上で必要な情報を見付けるために、文章と図表のそれぞれの言葉を線で結び付けて視覚的に理解できるよう指導を工夫するなど、文章と図表の関係を捉えて読むことができるよう指導を工夫していくことが必要である。

小学校6年生【算数】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	72.8	74	70.2
学習指導要領の 領域	A 数と計算	4	65.1	65.4	63.1
	B 図形	3	62.0	63.7	57.9
	C 測定	3	77.0	77.7	74.8
	C 変化と関係	3	79.0	79.8	75.9
	D データの活用	5	78.1	79.5	76.0
評価の観点	知識・技能	9	77.0	78.0	74.1
	思考・判断・表現	7	67.4	68.3	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

■ 正答状況

- ・ 全体では、区の平均正答率が全国値を2.6ポイント上回った。
- ・ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を2.9ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を2.3ポイントそれぞれ上回った。
- ・ 「知識・技能」より「思考・判断・表現」の方が上回ったポイントが若干低い。

■ 「データの活用」について

「思考・判断・表現」では、『帯グラフで表された複数のデータを比較し、割合の違いが一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く』『データの活用』問題の平均正答率が55.0%と最も低い。

■ 見えてきた課題

帯グラフなどで示された複数のデータを比較して、その特徴や傾向を捉えることに課題がある。

授業改善のポイント

- ・ 複数のデータについて、項目の割合を比較するために、帯グラフからそれぞれの割合を読み取るとともに、複数のデータの各項目の特徴や傾向を捉えることができるようにすることが大切である。
- ・ 帯グラフからデータの特徴や傾向を読み取るために、帯グラフのどの部分に着目したのかを伝え合う活動など指導を工夫する必要がある。

中学校3年生【国語】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		14	64.2	67	64.6
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	80.7	81.9	79.8
	書くこと	3	56.4	59.7	57.1
	読むこと	4	49.1	52.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	72.6	76.1	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.1	59.2	56.0
	話す・聞く能力	3	80.7	81.9	79.8
	書く能力	3	56.4	59.7	57.1
	読む能力	4	49.1	52.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	72.6	76.1	75.1

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

■ 正答状況

- ・ 全体では、区の平均正答率が全国値を0.4ポイント下回った。
- ・ 「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域では、区の平均正答率が全国値をそれぞれ0.9ポイント、0.6ポイント上回ったが、「書くこと」の領域は、区の平均正答率が全国値を0.5ポイント下回った。

■ 「書くこと」について

『意見文の下書きを直した意図について、選択肢から適切なものを選ぶ』問題は、平均正答率が23.5%と最も低い。

■ 見えてきた課題

分かりやすい文章に整えていくために、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えて書くことに課題がある。

授業改善のポイント

- ・ 目的や意図に応じて、読みやすく分かりやすい文章にするためには、表記や語句の用法、叙述の仕方、表現の効果などを読み手の立場に立って文章を整えることができるようにすることが大切である。
- ・ 読み手の立場になって、文章の構成の工夫、語句の使い方、段落相互の関係について考えることができるよう、書いた文章を互いに読み合う場を設定するなど指導を工夫していく必要がある。

中学校3年生【数学】

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	55.2	60	57.2
学習指導要領の 領域	数と式	5	63.7	68.5	64.9
	図形	4	49.3	56.0	51.4
	関数	3	54.9	58.1	56.4
	資料の活用	4	50.6	54.7	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	39.3	44.6	41.1
	数学的な技能	3	74.5	79.6	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	64.0	68.1	65.6

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

■ 正答状況

- ・ 全体では、区の平均正答率が全国値を2.0ポイント下回った。
- ・ 「数学的な見方・考え方」は、「数量や図形などについての知識・理解」や「数学的な技能」と比較して最も区平均正答率が低く、39.3%であった。

■ 「資料の活用」について

「数学的な見方・考え方」については、『データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する』「資料の活用」の問題で、平均正答率が8.2%と最も低く、無回答率も38.7%であった。

■ 見えてきた課題

「資料の活用」では、2つの分布のデータ傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

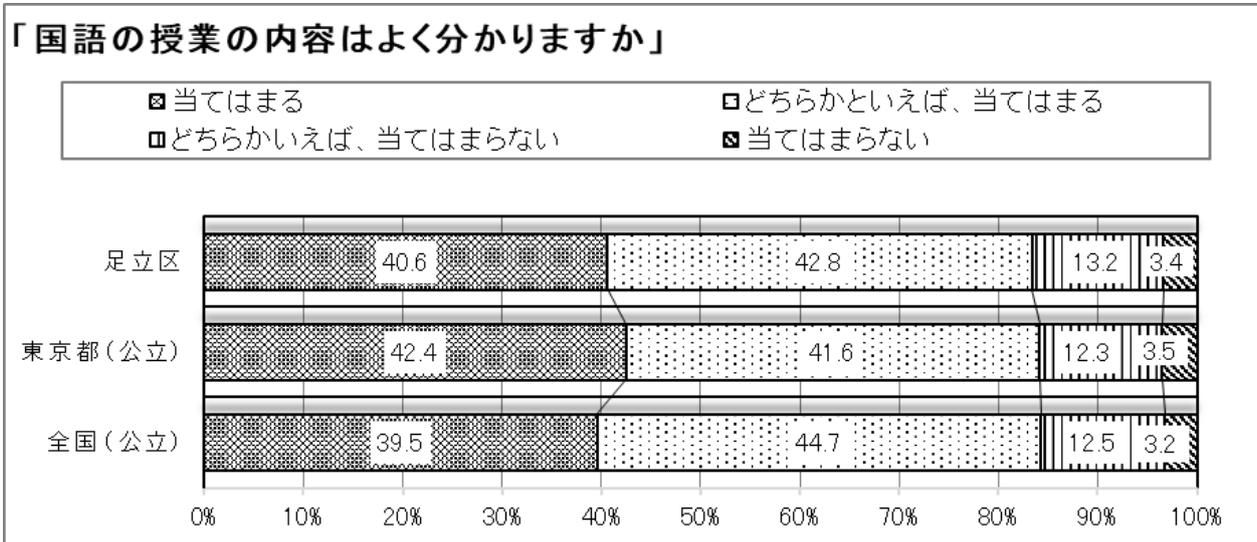
授業改善のポイント

- ・ データの分布の様子を捉える場面を設定し、相対度数の必要性和意味を理解することや、データの傾向を的確に捉えて判断できるようにすることが大切である。
- ・ 二つの度数分布多角形における分布の特徴について話し合う活動を通して、見だした分布の特徴から結論に至る根拠となるものを取り上げ、判断したこととその理由について数学的な表現を用いて説明するなど指導の工夫が必要である。

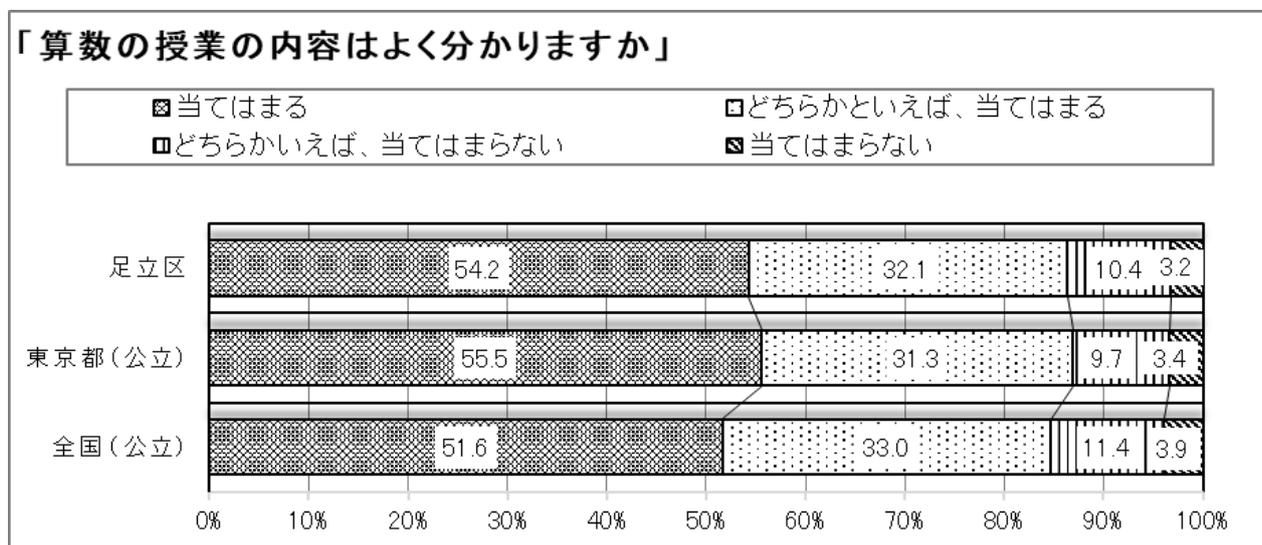
6 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」結果の概要

【小学校6年生】

○「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は83.4%で、東京都回答割合や全国回答割合を下回っています。

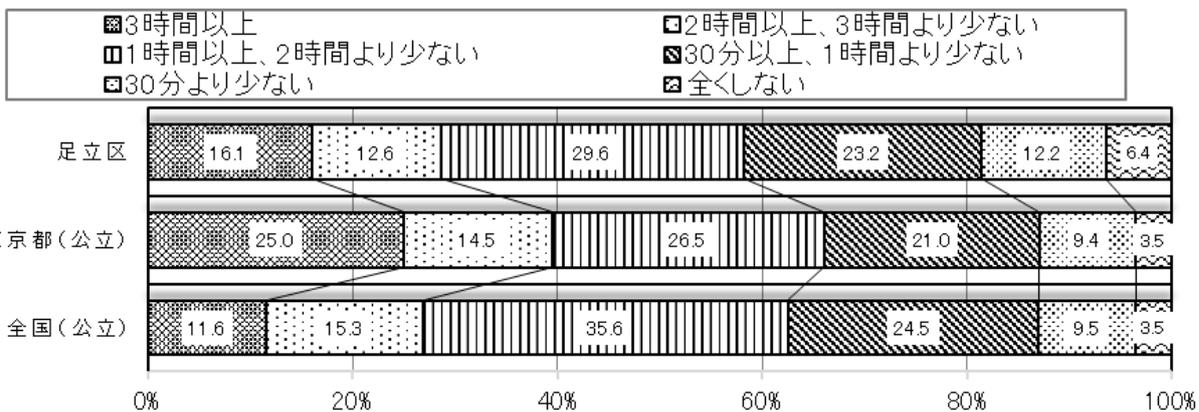


○「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える児童の割合は86.3%で、全国回答割合を上回っています。



○「普段（月曜日～金曜日）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が3時間以上の児童の割合は16.1%で、全国回答割合を上回っています。一方で、1時間未満（「30分以上、1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は41.8%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

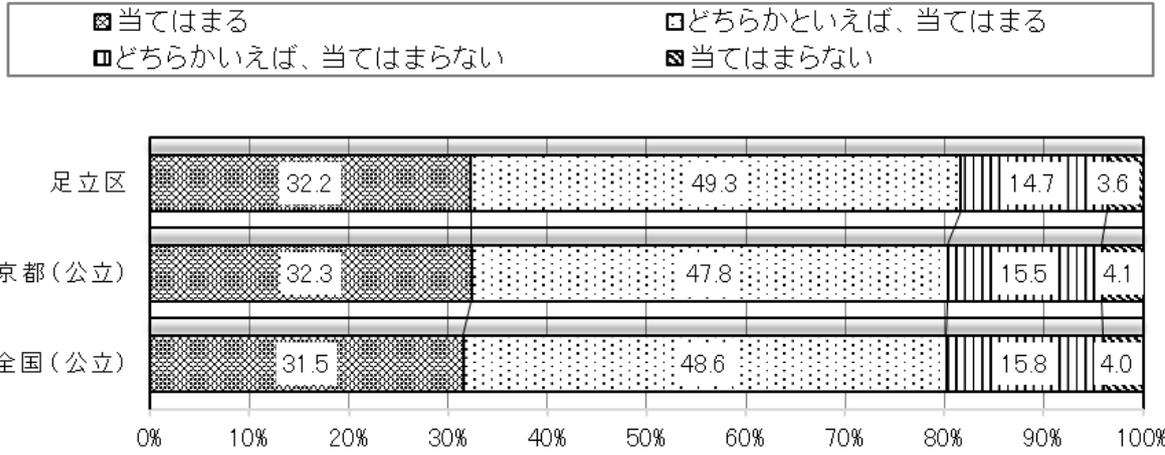
「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」



【中学校3年生】

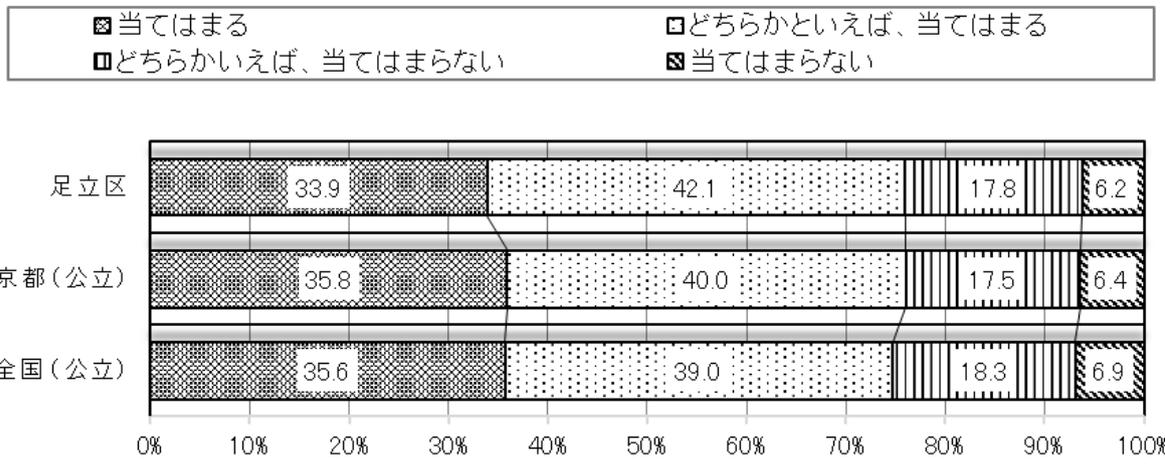
○「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は81.5%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

「国語の授業の内容はよく分かりますか」



○「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、肯定的（「当てはまる」＋「どちらかといえば、当てはまる」）に答える生徒の割合は76.0%で、東京都回答割合や全国回答割合を上回っています。

「数学の授業の内容はよく分かりますか」



○「普段（月曜日～金曜日）の学校の授業時間以外での勉強時間」に関する質問では、勉強時間が1時間未満（「30分以上、1時間より少ない」＋「30分より少ない」＋「全くしない」）の児童の割合は23.9%で、東京都回答割合を上回っています。

